



2019年3月期 第3四半期決算概況資料

2019年2月4日
九州旅客鉄道株式会社



KYUSHU RAILWAY COMPANY



- 九州旅客鉄道株式会社の経営企画部長の森です。皆様、本日はお忙しい中、ご参加いただき、誠にありがとうございます。
- 私から、2019年3月期第3四半期決算および通期業績予想について、本日公表しました決算概況資料に沿って説明します。

目次



I	2019年3月期第3四半期	決算実績	3
II	2019年3月期	通期業績予想	11

I 2019年3月期第3四半期 決算実績

- まず、2019年3月期第3四半期の決算について説明します。
- 4ページをご覧ください。

2019年3月期第3四半期 連結決算ハイライト【対前年】



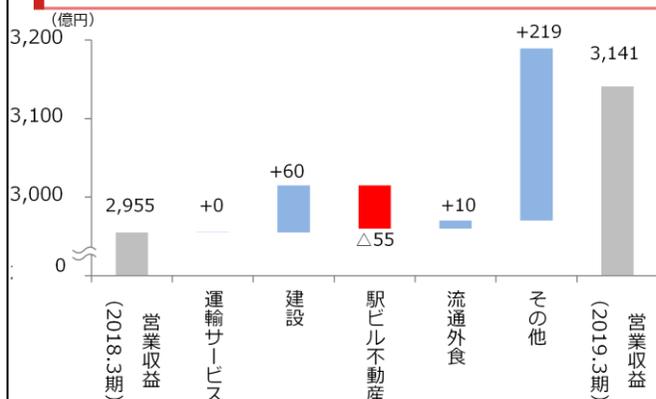
- 営業収益は2期連続の増収（過去最高）
- 営業利益は6期ぶりの減益
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は2期ぶりの減益
- EBITDAは2期連続の増加（過去最高）

（単位：億円）

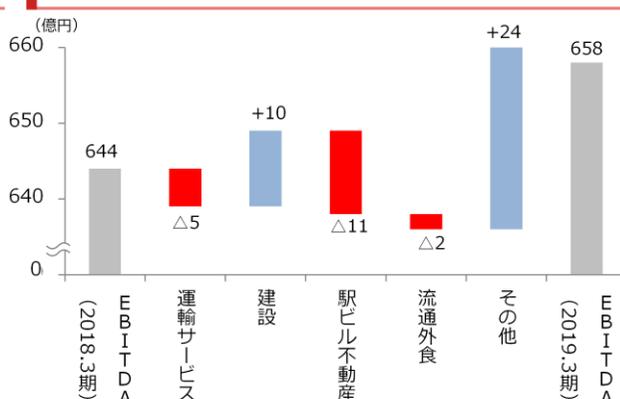
	2018年3月期 3Q累計実績	2019年3月期 3Q累計実績	対前年	
営業収益	2,955	3,141	186	106.3%
営業利益	517	502	△ 14	97.1%
経常利益	542	526	△ 16	97.0%
親会社株主に帰属する四半期純利益	399	394	△ 4	98.8%
EBITDA ^(※)	644	658	14	102.2%

※ EBITDA=営業利益+減価償却費（転貸を目的としたリース資産に係る減価償却費除く）以下、全て同様です。

セグメント別営業収益



セグメント別EBITDA



※ 各セグメントの増減値は、セグメント間取引消去前であり、連結全体の増減値とは一致しません。

- 連結決算の営業収益は、JR九州のマンション販売収入の減等はあったものの、キャタピラー九州の連結子会社化等により、対前年186億円の増収となりました。
- 営業利益はJR九州の減価償却費の増等により、対前年14億円の減益となりました。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、今年度発生した「平成30年7月豪雨」の災害による損失を計上したものの、昨年度発生した災害に伴う損失の減等により4億円の減益となりました。
- また、EBITDAは、キャタピラー九州の連結子会社化等により、対前年で14億円増加しました。
- 詳細については、5ページをご参照ください。
- 次にセグメント別の実績について説明いたします。6ページをご覧ください。

連結損益計算書



(単位：億円)

	2018年3月期 3Q累計実績	2019年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
営業収益	2,955	3,141	186	106.3%	キャタピラー九州子会社化に伴う増
営業費用	2,438	2,639	201	108.2%	キャタピラー九州子会社化に伴う増 減価償却費の増 (JR九州)
営業利益	517	502	△ 14	97.1%	
営業外損益	25	24	△ 1	94.2%	
経常利益	542	526	△ 16	97.0%	
特別損益	△ 29	△ 12	16	-	特別利益の増 (災害に伴う受取保険金等) 特別損失の減 (災害損失の減等)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	399	394	△ 4	98.8%	
EBITDA	644	658	14	102.2%	

セグメント情報【サマリー】



(単位：億円)

	2018年3月期 3Q累計実績	2019年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
営業収益	2,955	3,141	186	106.3%	
運輸サービス	1,353	1,354	0	100.0%	鉄道運輸旅客収入の増 等
建設	462	522	60	113.0%	新幹線関連工事の増 等
駅ビル・不動産	536	481	△ 55	89.7%	マンション販売収入の減 等
うち不動産賃貸	362	387	24	106.8%	タイのサービスアパートメント事業、六本松421、肥後よかもん市場による増 等
流通・外食	775	785	10	101.3%	
その他	430	649	219	150.9%	キャタピラー九州子会社化、JR九州ホテルブラッサム那覇の平年度化 等
営業利益	517	502	△ 14	97.1%	
運輸サービス	274	255	△ 19	93.0%	減価償却費の増 等
建設	15	25	9	163.8%	
駅ビル・不動産	188	173	△ 14	92.2%	
うち不動産賃貸	163	167	3	102.4%	
流通・外食	27	25	△ 2	91.5%	人件費の増 等
その他	14	27	13	190.1%	キャタピラー九州子会社化、JR九州ホテルブラッサム那覇の平年度化 等
EBITDA	644	658	14	102.2%	
運輸サービス	311	306	△ 5	98.2%	
建設	21	32	10	150.9%	
駅ビル・不動産	254	242	△ 11	95.6%	
うち不動産賃貸	228	236	7	103.3%	
流通・外食	40	37	△ 2	94.0%	
その他	23	47	24	204.8%	

6

- 各セグメントについて、説明します。
- 運輸サービスセグメントについては、鉄道旅客運輸収入の増はあったものの、JR九州の減価償却費の増等により、増収・減益となり、EBITDAも減少しました。
- 建設セグメントについては、新幹線関連工事の増等により、増収・増益となり、EBITDAも増加しました。
- 駅ビル・不動産セグメントについては、昨年度取得したタイのサービスアパートメント事業や昨年度開業した六本松421や肥後よかもん市場による不動産賃貸の増はあったものの、マンション販売の収入減等により減収・減益となり、EBITDAも減少しました。
- 流通・外食セグメントについては、ドラッグストアやコンビニエンスストアの新規出店等により増収となったものの、人件費の増等により減益となり、EBITDAも減少しました。
- その他セグメントについては、キャタピラー九州の連結子会社化、及び昨年度開業したJR九州ホテルブラッサム那覇の平年度化等により増収・増益となり、EBITDAも増加しました。
- 続きまして、単体決算について説明します。8ページをご覧ください。

連結貸借対照表



(単位：億円)

	2018年3月期	2019年3月期 3Q期末	増減	主な増減要因
総資産	7,493	7,518	24	
現金及び預金	150	175	24	
短期有価証券	650	337	△ 313	譲渡性預金の減
金銭の信託	557	570	12	
有形固定資産	3,906	4,292	385	土地の取得（京都）等
うち鉄道事業資産	472	527	54	
有利子負債	873	869	△ 4	
純資産	3,832	4,108	276	
資本金及び資本剰余金	2,502	2,502	△ 0	
利益剰余金	1,249	1,507	257	

単体損益計算書



(単位：億円)

	2018年3月期 3Q累計実績	2019年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
営業収益	1,643	1,575	△ 68	95.9%	
鉄道旅客運輸収入	1,139	1,142	3	100.3%	
その他収入	504	432	△ 71	85.8%	マンション販売収入の減 等
営業費用	1,226	1,188	△ 37	96.9%	
人件費	381	373	△ 7	97.9%	
物件費	711	662	△ 48	93.1%	
動力費	66	70	4	106.4%	
修繕費	202	206	4	102.1%	
その他	442	385	△ 57	87.0%	マンション販売原価の減 等
租税公課	62	66	3	105.3%	
減価償却費	70	86	15	122.6%	
営業利益	417	387	△ 30	92.7%	
営業外損益	45	84	38	185.8%	受取配当金の増 等
経常利益	462	471	8	101.8%	
特別損益	△ 36	△ 7	28		受取保険金の増、平成29年九州北部豪雨及び台風18号に伴う災害経費の減、平成30年7月豪雨災害に伴う災害経費の増 等
四半期純利益	349	384	35	110.2%	

8

- 営業収益は、マンション販売収入の減等により対前年68億円の減収となりました。
- 営業費用は、減価償却費、動力費および修繕費の増はあるものの、人件費の減やマンション販売原価の減等により、対前年で37億円減少しました。
- 特別損益は、「平成30年7月豪雨」に伴う災害経費の増があったものの、「平成28年熊本地震」の受取保険金の増、および昨年度発生した災害に伴う損失の減等により、28億円増加しました。
- 以上の結果、四半期純利益は対前年35億円の増益となりました。
- 10ページをご覧ください。

単体損益計算書【再掲】



(単位：億円)

		2018年3月期 3Q累計実績	2019年3月期 3Q累計実績	対前年	
鉄道事業	営業収益	1,261	1,259	△ 2	99.8%
	営業費用	992	1,007	14	101.5%
	営業利益	268	252	△ 16	93.7%
関連事業	営業収益	382	316	△ 66	82.7%
	営業費用	233	181	△ 52	77.5%
	営業利益	148	135	△ 13	90.9%

鉄道事業



鉄道旅客運輸収入

(単位：億円)

	2018年3月期 3Q累計実績	2019年3月期 3Q累計実績	対前年		主な増減要因
全社計	1,139	1,142	3	100.3%	
定期	247	248	1	100.4%	
定期外	891	894	2	100.3%	
新幹線	410	417	7	101.9%	・基礎トレンド（101%程度）
定期	20	20	0	101.9%	・大河ドラマ「西郷どん」放映による増
定期外	389	397	7	101.9%	・9月連休回数の増
在来線	729	725	△ 4	99.4%	・基礎トレンド（100%程度）
定期	227	227	0	100.3%	・平成30年7月豪雨による減
定期外	502	497	△ 4	99.0%	・昨年梅雨時期好天の反動による減

輸送人キロ

(単位：百万人キロ)

	2018年3月期 3Q累計実績	2019年3月期 3Q累計実績	対前年	
全社計	7,115	7,080	△ 35	99.5%
定期	3,265	3,267	1	100.0%
定期外	3,850	3,813	△ 36	99.0%
新幹線	1,516	1,545	28	101.9%
定期	150	151	1	101.2%
定期外	1,366	1,393	26	102.0%
在来線	5,599	5,535	△ 63	98.9%
定期	3,115	3,115	△ 0	99.9%
定期外	2,483	2,419	△ 63	97.4%

10

- 鉄道旅客運輸収入について、新幹線は基礎トレンドが101%程度と堅調であったほか、大河ドラマ放映の効果や9月の連休回数の増等もあり、対前年101.9%となりました。
- 一方、在来線は基礎トレンドは100%程度であったものの、「平成30年7月豪雨」による影響や昨年梅雨時期の好天の反動等により対前年99.4%となりました。
- 続きまして、2019年3月期の通期業績予想について説明します。
- 12ページをご覧ください。

Ⅱ 2019年3月期 通期業績予想

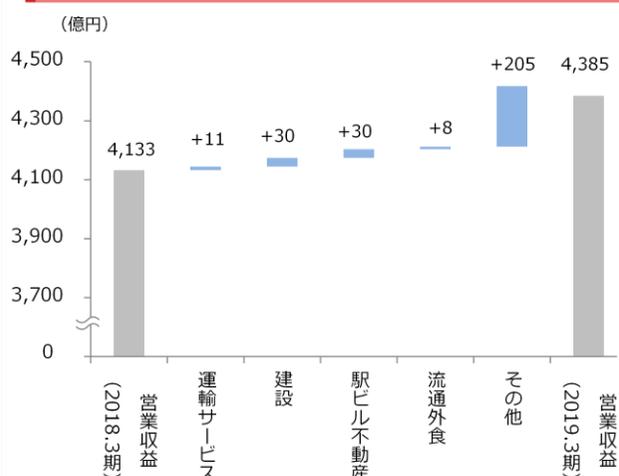
連結業績予想ハイライト



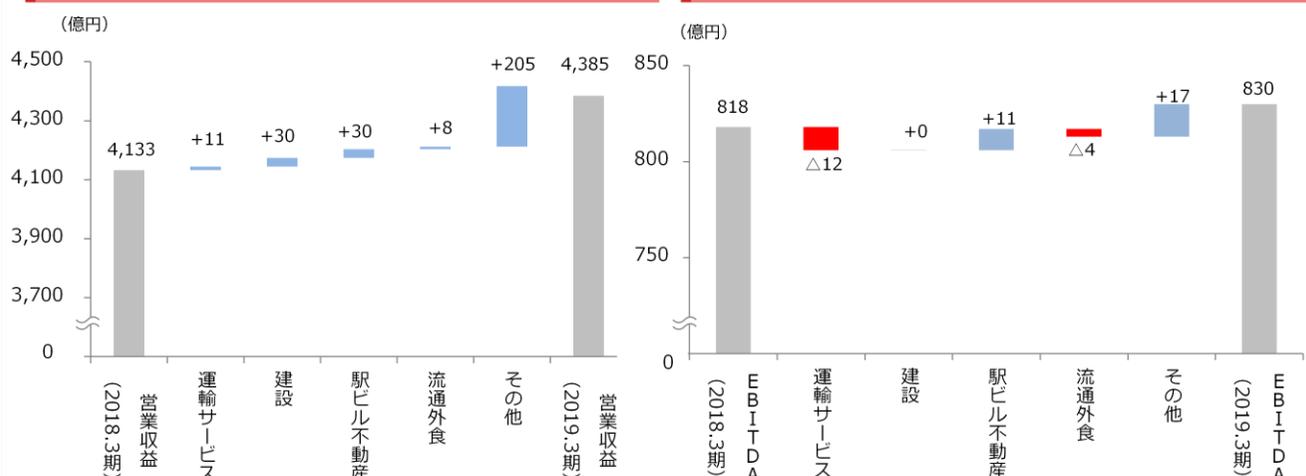
(単位：億円)

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期通期 前回 (12/13) 予想	2019年3月期通期 今回 (2/4) 予想	対前年		対前回予想
営業収益	4,133	4,397	4,385	251	106.1%	△ 12
営業利益	639	607	619	△ 20	96.8%	12
経常利益	670	626	644	△ 26	96.1%	18
親会社株主に帰属する四半期純利益	504	475	482	△ 22	95.6%	7
1株当たり当期純利益 (円)	315.07	296.88	301.25	△ 13.82	95.6%	4.38
EBITDA	818	820	830	11	101.4%	10

セグメント別営業収益



セグメント別EBITDA



12

- 2019年3月期通期の連結業績予想については、2018年12月13日公表の通期予想から営業収益を下方修正、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益をそれぞれ上方修正しています。
- 連結業績予想について、セグメント別に説明します。
- 13ページをご覧ください。

連結業績予想【セグメント別】



(単位：億円)

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期通期		対前年		対前回予想
		前回 (12/13) 予想	今回 (2/4) 予想			
営業収益	4,133	4,397	4,385	251	106.1%	△ 12
運輸サービス	1,837	1,869	1,849	11	100.6%	△ 20
建設	880	886	911	30	103.5%	25
駅ビル・不動産	694	706	725	30	104.4%	19
うち不動産賃貸	490	516	526	35	107.3%	10
流通・外食	1,031	1,054	1,040	8	100.8%	△ 14
その他	674	872	880	205	130.5%	8
営業利益	639	607	619	△ 20	96.8%	12
運輸サービス	292	275	261	△ 31	89.3%	△ 14
建設	62	51	62	△ 0	98.9%	11
駅ビル・不動産	232	226	239	6	103.0%	13
うち不動産賃貸	206	206	215	8	104.1%	9
流通・外食	36	36	32	△ 4	87.7%	△ 4
その他	24	27	33	8	136.9%	6
EBITDA	818	820	830	11	101.4%	10
運輸サービス	343	344	331	△ 12	96.2%	△ 13
建設	70	59	71	0	100.4%	12
駅ビル・不動産	320	321	332	11	103.6%	11
うち不動産賃貸	294	300	308	13	104.5%	8
流通・外食	53	53	49	△ 4	91.8%	△ 4
その他	39	51	57	17	143.9%	6

13

- ▶ 主なセグメントについて説明します。
- ▶ 運輸サービスセグメントは、補償金工事の減等による減収や原油価格の高騰による動力費の増等による費用増により、対前回予想で減収・減益を見込んでいます。
- ▶ 建設セグメントは、新幹線関連工事の前倒しによる増や、当初計画より人件費や材料原価が減少したこと等により、対前回予想で増収・増益を見込んでいます。
- ▶ 駅ビル・不動産セグメントは、分譲マンション販売の増や賃貸マンション収入の増等により、対前回予想で増収・増益を見込んでいます。
- ▶ 流通・外食セグメントは、ドラッグストアの新規出店の遅れや流通事業における同業他社との競争激化による既存店への影響を踏まえ、対前回予想で減収・減益を見込んでいます。
- ▶ その他セグメントは、ホテル事業が堅調に推移していることや新幹線関連工事の資材収入の増等により、対前回予想で増収・増益を見込んでいます。
- ▶ 続きまして、単体業績予想について説明します。
- ▶ 14ページをご覧ください。

単体業績予想



(単位：億円)

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期通期		対前年		対前回予想
		前回 (12/13) 予想	今回 (2/4) 予想			
営業収益	2,197	2,228	2,222	24	101.1%	△ 6
鉄道旅客運輸収入	1,511	1,515	1,515	3	100.2%	-
新幹線	541	550	550	8	101.6%	-
在来線	970	965	965	△ 5	99.5%	-
その他収入	685	713	707	21	103.1%	△ 6
営業費用	1,729	1,780	1,774	44	102.6%	△ 6
人件費	513	498	498	△ 15	96.9%	-
物件費	1,043	1,080	1,076	32	103.1%	△ 4
動力費	88	90	95	6	107.2%	5
修繕費	363	389	382	18	105.0%	△ 7
その他	590	601	599	8	101.4%	△ 2
租税公課	75	82	81	5	106.8%	△ 1
減価償却費	96	120	119	22	122.8%	△ 1
営業利益	467	448	448	△ 19	95.8%	-
営業外損益	55	55	84	28	152.0%	29
経常利益	522	503	532	9	101.8%	29
特別損益	△ 23	-	△ 1	22	-	△ 1
当期純利益	416	417	446	29	107.1%	29

14

- 単体業績予想についても、2018年12月13日公表の通期予想から営業収益は下方修正したものの、営業利益は据え置き、当期純利益は上方修正しています。
- 鉄道旅客運輸収入については、「平成30年7月豪雨」による影響はあるものの、新幹線収入が堅調に推移している等、第3四半期までのご利用状況等を鑑み、対前回予想から据え置きとしています。
- 営業費用について、動力費は、単価の増等により対前回予想で5億円の増を見込んでいるものの、補償金工事の減に伴う修繕費の減等により対前回予想で6億円の減を見込んでいます。
- 営業外損益については、グループ会社からの受取配当金の増等により、対前回予想で29億円の増を見込んでいます。
- その結果、当期純利益については、対前回予想で29億円増の446億円を見込んでいます。
- 以上で、説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。

単体業績予想【再掲】



(単位：億円)

	2018年3月期 通期実績	2019年3月期通期		対前年		対前回予想	
		前回 (12/13) 予想	今回 (2/4) 予想				
鉄道事業	営業収益	1,713	1,740	1,723	9	100.6%	△ 17
	営業費用	1,430	1,475	1,466	35	102.5%	△ 9
	営業利益	282	265	257	△ 25	91.1%	△ 8
関連事業	営業収益	484	488	499	14	103.0%	11
	営業費用	299	305	308	8	103.0%	3
	営業利益	185	183	191	5	103.1%	8

将来の見通しに関する記述について



本資料には、JR九州グループの見通し・目標等の将来に関する記述がなされています。

これらは、本資料の作成時点において入手可能な情報、予測や作成時点における仮定に基づいた当社の判断等によって記述されたものであります。そのため、今後、国内外及び九州の経済情勢、不動産市況、各プロジェクトの進捗、法令規制の変化、その他の幅広いリスク・要因の影響を受け、実際の経営成績等が本資料に記載された内容と大きく異なる可能性があることにご留意ください。

弊社IR関連資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。
JR九州ホームページ

<http://www.jrkyushu.co.jp/company/ir/library/earnings/>